

No.2927

日本とアジアの若手上海研究者フロンティア国際会議

神奈川大学 外国語学部国際センター  
教授・学長補佐副所長  
孫 安石

貴財団の2018年度の国際学術交流助成「日本とアジアの若手上海研究者フロンティア国際会議」(以下、上海会議)は、東アジアを代表する国際都市の一つとして成長している「上海研究」の現状を日本・中国・韓国の研究者が交流し、互いの研究情報や人的ネットワークの共有を図り、今後の日本とアジアの都市研究の基礎になるターミナルを作ることを目標に掲げたものでした。上記の上海会議の目標を達成するために、上海側では上海社会科学院歴史研究所と日本側では神奈川大学非文字資料研究センターの全面的な協力を得ながら

(1) 2018年6月ー7月の間は、上海会議の参加者を募り、

(2) 2018年9月には参加者を確定し、上海会議のチラシを作成し、日本・中国・韓国・台湾・香港などの中国都市史関連研究者への広報活動を展開し、

(3) 2018年11月9日と10日の両日に渡り、合計36本の研究報告がなされ、当初の上海会議の目標を達成し、会議を終えることができました。

この上海会議は中国の新聞『澎湃新聞』(2018年11月12日)、『上観新聞』(2018年11月28日)、『社会科学報』(2018年12月、五版)の記事としても紹介される等大きな反響がありました。また、日本側の上海会議参加者による大会参加記が『神奈川大学非文字資料研究センター』Newsletter第41号と『東方』(2019年5月号)にそれぞれ掲載されました。

今回の上海会議で育まれた学術交流の人的ネットワークが、今後の日・中・韓の「上海研究」の分野だけではなく、その他の学術交流のモデルとして参考になることを期待しています。

(以上)